

事例発表

AIカメラデータで変える 観光地の未来

～高山市モデルの挑戦～

概要

○地域の課題

課題1. 観光地の効率的な人流把握が困難

- ・主要観光スポットの賑わいを示す人流を効率的に継続して収集する手段がない。

課題2. 官民双方の意思決定においてエビデンスが不足

- ・(官)観光ニーズの定量的な把握・分析ができず、施策の効果検証が難しい。
- ・(官)橋の設置や道路整備などの効果を客観的に評価できる仕組みがない。
- ・(民)観光客はいるが、店舗の営業時間やサービスが人流に合っていない。
- ・(民)データに基づく営業戦略ができていない。

課題3. デジタルによる地域課題解決に向けた体制づくり

- ・地域全体でデジタルによる地域課題を解決していくための組織がない。

地方都市・観光地では全国的に共通する課題

- ・名古屋大学浦田准教授(地域情報化アドバイザー)による助言
- ・産学官連携(名古屋大学・高山市・NECソリューションイノベータ(NES))による推進
- ・AIカメラにて、通行量、人の属性、移動方向を計測 ⇒産学官民でデータ活用

設置のイメージ

高山市 AIカメラ
人数+方向+年齢性別
4台

名大 AIカメラ
人数+車両台数+方向
9台



概要

○状況

AIカメラ設置から6年、今も地域をあげて改善活動が継続

課題1. 観光地の効率的な人流把握が困難

→AIカメラで24時間365日人流を計測

・曜日・時間帯別のデータを収集し、詳細な傾向の把握・分析が可能に

課題2. 官民双方の意思決定においてエビデンスが不足

→オープンデータ化で地域の人々も活用

・(官)市営神明駐車場バス区画廃止実証実験の影響検証に活用

・(民)データに基づき、土曜に人が多い店舗は閉店時間を30分延長。(平均売上+7%、最大+27%増)

課題3. デジタルによる地域課題解決に向けた体制づくり

→飛騨高山DX推進官民連携プラットフォームの設立

・産学官連携の取組が発展

・地域DXに関わる各種主体が気軽に情報交換できる場を整備

・ICTを活用したまちづくりワークショップ、高校生デジタルサロン、歩行者数予測などさまざまな取組を展開

通行量の予測



バス施策分析ワークショップの様子

